

第三章 砂防工事

第一 淀川流域(瀬田川)砂防工事

緒言

本工事ハ淀川全流域ニ亙リ明治十一年度ヨリ施行中ノ處同四十年年度ヨリ十箇年度繼續事業トシ毎年三萬圓ヲ以テ淀川流域中瀬田、木津兩支川流域ニ於テ施行ノ事ニ改定セラレ其後數次ニ亙リ之ヲ追加延長シテ昭和四年度ニ至ル二十三箇年度繼續事業トシ總工費豫算六十九萬圓ヲ以テ施行ノ事ニ改マリシモ昭和二年度ヨリ木津川流域ハ別途計畫トナリ分離セシヲ以テ瀬田川流域ノミ元計畫ノ下ニ年額三萬圓ヲ以テ施行シ來リ昭和四年度ヲ以テ豫定計畫期間滿了トナリシモ尙兀崩荒廢ノ地廣汎且急施ヲ要スル箇所多キヲ以テ引續キ昭和五年度ヨリ更ニ十箇年度ヲ延長シ豫算三十萬圓ヲ増額セラレ總工費九十九萬圓トナリ昭和十四年度ニ至ル三十三箇年度ト改定更ニ昭和六年度ニ於テ二箇年度延長ノ三十五箇年度繼續事業トナレリ尙同年度ニ財政緊縮ノ爲メ四萬二千七百二十八圓ヲ減額サレ更ニ同七年度以降ニ於テ一箇年度延長サルト共ニ百七十四圓ヲ減ゼラレ昭和八年度以降ニ於テ二萬二千九百七圓ヲ増額セラレシヲ以テ總工費豫算九十七萬五圓、施工期限昭和十七年度ニ至ル三十六箇年度ト改定セラレタリ

施工狀況

本年度ハ年割豫算額五萬一千四百五圓(内時局匡救事業豫算額四萬圓)ヲ以テ瀬田川支大戸川流域ノ上流
甲賀郡ハ雲井工場下流ノ栗太郡ハ下田上工場ニ於テ施行セリ其竣功高ハ新設工事三十ヘクター九七
工費四萬二千二百九十五圓修繕工事十ヘクター三工費五百四十一圓合計四萬二千八百三十六圓ニシ
テ之ヲ内譯スレバ繼續工事五千六十六圓(竣功面積十ヘクター三)振興工事三萬七千七百七十圓(竣功面
積三十ヘクター九七)ナリ

尙工事施行ニ關シテハ時局匡救事業ノ趣旨ニ鑑ミ町村役場ト連絡ヲ取り附近部落ノ失業者ヲ多數使用
シ且多額ノ賃銀ヲ附與セシ結果山間僻地ノ農山村ニ幾分ノ潤ヲ與ヘ匡救ノ實顯著ナルモノヲ舉ゲ得タ
リ

コノ工事使役勞働者延人員ハ五萬四千四百九十四人ニ及ベリ
明治四十年年度以降本工事費ノミノ竣功額累計ハ七十六萬一千百九十圓ニシテ之ヲ關係府縣別ニ表示セ
バ左ノ如シ

種	別	滋賀三重京都奈良良合計					
		新設	修繕	工事	工事	計	計
新設	工事	110,000	40,000	150,000	150,000	150,000	150,000
修繕	工事	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
總計	計	210,000	140,000	250,000	250,000	250,000	250,000

尙明治四十年年度ヨリ本年度迄ニ竣功シタル總金額ハ九十一萬八百三十四圓ニシテ豫算額九十七萬五圓
ニ比スレバ約九割四分ノ竣功ニ當ル其内譯左表ノ如シ但シ表中「」ハ寄附物品見積價額「」ハ再使用品見
積價額ヲ示ス

費 目	本 工 事 費													總 計
	堰	積	積	護	床	石	筋	根	藁	崖	苗	藁	柴	
	堤	苗	石	岸	固	垣	工	固	工	切	付	工	叩	
前年度迄竣功高	数量 二、八八〇 米	数量 一、〇〇〇、一四〇 米	数量 三、九、三三八	数量 一、四〇〇	数量 三、二二三	数量 八、八四六	数量 三、〇〇六	数量 三、八	数量 一〇、六八〇	数量 三、一、三三三	数量 一、四、九、九〇〇 米	数量 一、五、九、九六 米	数量 六、九	總計 八、五、九、九六 米
本年度竣功高	数量 一、〇〇〇 米	数量 一、〇〇〇、一四〇 米	数量 一、〇〇〇、一四〇 米	数量 一、〇〇〇	数量 一、〇〇〇	数量 一、〇〇〇	数量 一、〇〇〇	数量 一、〇〇〇	数量 一、〇〇〇	数量 一、〇〇〇	数量 一、〇〇〇	数量 一、〇〇〇	数量 一、〇〇〇	總計 一、〇〇〇、一四〇 米
合 計	数量 三、八八〇 米	数量 二、〇〇〇、二八〇 米	数量 四、九、五二八	数量 二、四〇〇	数量 四、二二三	数量 九、八四六	数量 四、〇〇六	数量 四、八	数量 二一、六八〇	数量 六、一、三三三	数量 二、五、九、九〇〇 米	数量 二、五、九、九六 米	数量 七、九	總計 一〇、五、九、一〇六 米
竣功	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合

第二 富士川流域砂防工事

緒言

本工事ハ明治四十四年度ヨリ昭和四年度ニ至ル十九箇年度繼續事業トシテ毎年度工費七萬五千圓、總工費百四十二萬五千圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ其後既定工費ヲ百四十一萬一千圓ニ改メ同時ニ年割額ヲ變更シ且施行年限ヲ二箇年度延長施行中ノ處一般財政緊縮ノ爲メ昭和五年度以降減額シテ總工費ヲ百三十八萬四千二百三十七圓ニ改メ施行年限ヲ延長スルト共ニ農山村振興ノ爲メ昭和七年度ニ於テ六萬圓、時局匡救ノ爲メ昭和八年度ニ於テ九萬圓及同九年度ニ於テ五萬四千圓ヲ追加増額シ總計百五十八萬八千二百三十七圓ヲ以テ施行スルコトナレリ

其區域ハ富士川支川笛吹川、小支目川、筋、上流釜無川、支川御勅使川、筋及釜無川ノ本支川並富士川支川早川筋ナリトス

河狀並計畫大要

富士川ハ其本支川ヲ通ジ殆ンド全流域ニ互リ山坂急峻、岩質脆弱ニシテ山腹ノ崩壞砂礫ノ流出甚シク或ハ天井川トナリ或ハ下流耕地ヲ荒廢セシメ或ハ主流ノ河床ヲ上昇セシムルヲ以テ水源ノ砂防工事ハ治水並國土保安上緊要缺クベカラザル事業ナリトス

是ヲ以テ明治四十年及同四十三年ノ大洪水直後明治四十四年ヨリ日川筋ニ砂防工事ヲ創メ大正五年御

勅使川筋ニ着工シ爾來十數年度間兩川ノ工事ヲ繼續施行シ稍完備ニ近ヅキシガ昭和七年度ニ至リ時局匡救ノ爲メ農山村振興ノ一端トシテ富士川流域砂防工事費ノ追加ヲ認メラレシヲ機會ニ更ニ上流釜無川筋ノ本支川及富士川支川早川筋ニ區域ヲ廣メ山梨縣施行ノ砂防工事及荒廢地復舊工事ト相俟ツテ水源ノ整備ニ努ム

日川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡ト北都留郡トノ境界ナル大菩薩嶺（標高二千五十九米）ニ發シ流域面積百八平方糎、流路延長二十八糎ニシテ東山梨郡勝沼町ノ下流四糎ノ箇所ニテ笛吹川ニ合流スル急勾配ノ河川ナリ水源ヨリ勝沼町地先祝橋迄二十一糎ノ間ハ山間部ニ屬シ兩岸概ネ岩盤露出シ河幅狹ク水面勾配急ニシテ下流ニ於テモ約三十分ノ一ナリ

祝橋以下笛吹川合流點ニ至ル六糎ノ間ハ平地部ニ屬シ河幅廣ク水面勾配四十分ノ一以下ナルヲ以テ上流ヨリ流下セル土砂、石礫ハ此部内ニ堆積シ水流ハ亂レテ輕鬆ナル兩岸ヲ衝キ漸次河幅ヲ擴大セントスルノ傾向アリ明治四十年八月ニ於ケル大水害ノ際ハ本川流域山地ニ數百箇所ノ崩壞ヲ生ジ多量ノ土砂ヲ流下シ強烈ナル土砂流ヲ起シ勝沼町地先平地部ニ於テモ尙重量十數噸ノ大轉石移動シ亂流ハ兩岸ノ高地ヲ崩壞シ沿川各地ニ甚大ナル損害ヲ與ヘタリ依テ先ヅ祝橋上流一糎一、下流一糎九、計三糎ノ間ノ兩岸ニ多數ノ水制ヲ施設スル外法線内ノ浚渫ヲ行ヒ水路ヲ一定シテ河岸ノ崩壞ヲ防止シ尙上流十數箇所ニ堰堤ヲ築造シテ土石ノ流下ヲ扞止セントス

御勅使川ハ駒ヶ嶽ヨリ南ニ連亘スル山脈中辻山（標高二千五百八十五米）大崖頭山等ノ連峰ヲ分水界トシ「トノコヤ」峠附近ヨリ其主流ヲ發シ流域面積八十五平方糎、流路延長十九糎ニシテ釜無川ニ合流スル急勾配ノ河川ナリ水源ヨリ中巨摩郡源村大字駒場地先迄約十二糎間ハ山間部ニ屬シ兩岸概ネ岩盤露出シ河

幅狹ク水面勾配急ニシテ下流ニ於テモ尙三十分ノ一ナリ之ヨリ以下釜無川合流點ニ至ル七軒ノ間ハ平地部ニ屬シ河幅急ニ擴ガリ甚シキハ七百米ニ及ビ上流部ヨリ流下セル多量ノ土砂ハ此區域ニ堆積シ河床ハ沿岸ノ田畑ニ比シ遙カニ高ク亂流ハ屢々堤防ヲ破壞シ沿川各地ニ多大ナル損害ヲ與ヘ縣下ニ於ケル荒廢河川ノ最タルモノナリ

河狀斯ノ如クナルヲ以テ山間部幹支川ノ適當ナル位置ニ數箇所ノ堰堤ヲ築造シ土石ノ流下ヲ扞止シ併テ河床ノ低下山腹ノ決壊ヲ防止セントス

釜無川ハ富士川ノ上流ニシテ笛吹川合流點以奥ヲ稱スレドモ本工事ニ於テハ長野縣落合村立場川合流點以奥ノ部分ヲ指稱ス

釜無川ハ源ヲ駒ヶ嶽ノ北西ニ連ナル鋸山連峰(標高二千六百六米)ニ發シ途中中ノ川、黒川等ノ大小幾多ノ支川ヲ合セ流路延長十五軒ニシテ立場川合流點ニ達シ流域面積六十六平方軒ヲ算シ此區間ハ全部山間部ニ屬シ水面勾配下流端ニ於テ尙四十分ノ一前後ナリ

本川ハ明治初年迄ハ河幅極メテ狹ク兩岸森林密生セシガ明治元年、同八年及同九年ノ出水以降連年洪水ハ爲メ河狀急激ニ惡化シ河敷ハ漸次兩岸ノ山脚迄擴ガリ兩岸ノ崩壞大小數支川ノ押出砂礫圓錐隨所ニ存在シ下流ニ及ボス影響甚大ナルモノアルベシ以上荒廢本支川ノ流出土砂ノ扞止ヲ完カラシメンガ爲ニハ巨額ノ工費ヲ要スベキモ只追加豫算ノ範圍ニ於テ最モ有効ナル支川ノ堰堤床固及崩壞箇所ノ護岸及山腹工事ヲ行フニ止メ他ハ遺憾ナガラ他日ノ機會ヲ待ツノ外ナシ

早川ハ源ヲ駒ヶ嶽(標高二千九百六十六米)仙丈ヶ嶽(標高三千三十三米)ニ發シ本邦有數ノ高山白根三山ト鳳凰山地トノ間ヲ流下シ雨畑川、春木川其他大小數十ノ支川ヲ合セ南巨摩郡原村ニ於テ富士川ニ合流ス

ル急流河川ニシテ流域面積五百十一平方糎ノ大支流ナリ

本川ハ下流都川以下ノ支川何レモ荒廢シ爲ニ合流點ニ於テハ富士川ノ急流ヲ制壓シテ押出セル砂礫圓錐ノ面積一平方糎七五ヲ超ユルヲ見テモ其河狀ヲ窺フニ足ルベシ

斯ルガ故之ガ砂防工事ヲ完カラシメ富士川上下流沿川ニ相當ノ效果アラシメンガ爲ニハ數十萬圓ノ工費ヲ要スルヲ以テ充分ナル施設ハ他日ノ機會ニ譲リ重要支川春木川ニ堰堤、床固、護岸及水制等ヲ築設シテ同川ノ流下土砂ヲ扞止シ亂流ニ依ル山脚ノ決潰ヲ防止スル一端ニ資スルニ止ム

春木川ハ早川ノ右支ニシテ源ヲ七面山（標高二千九百八十二米）及之ヨリ南西ニ連ナル山脈ヨリ發シ流路延長十一糎、流域面積二十一平方糎、水面勾配合流點附近ニ於テ二十分ノ一前後ノ急流河川ナリ

本川モ明治ノ初年度迄ハ兩岸山腹密林ヲ爲シ沿岸ニ耕地點在シタル小溪流ニ過ギザリシモ其後數次ノ出水ニ因リ右岸七面山系全般ニ崩壞ヲ生ジ河谷全部河敷ト化シ本邦有數ノ大崩壞美女崖ヲ有スルニ至レリ

本川ノ兩岸山腹及支川ハ何レモ三分ノ一乃至五分ノ一ノ急勾配ナレバ繼續事業ニ依ルニ非ラザレバ適當ノ施設困難ナルヲ以テ本流ノ適當ノ箇所ニ堰堤及床固ヲ配置シ河床ヲ整ヘ巨石ノ移動ヲ扞止スルト共ニ護岸水制等ノ築設ニ依リテ亂流ニ依ル荒廢ヲ防止スルヲ良策トシ追加豫算ノ範圍内ニ於テ其一部ノ工事ヲ行ヘリ

施工狀況

本工事ハ明治四十四年度ノ創業ニ係リ大正五年度迄ハ主トシテ日川筋東山梨郡勝沼町以下ニ施行シ此

期間ニ水制七十四箇所、護岸一箇所、堰堤一箇所及低水路掘鑿二十六萬五千立方米ヲ完成セリ是等ノ施設ニ依リ水流ハ一定ノ法線内ニ集リ河床ハ漸次低下シ約三十二ヘクタールノ石河原ヲ豐饒ナル田畑ト化スルニ至リ極メテ良好ナル結果ヲ得タリ

依テ勝沼町附近ノ工事ハ補修ニ止メ大正九年度以降ハ其上流山間部ニ鶴瀬、駒飼、長垣、横吹、矢方平、水野田、丸林、初鹿野、山口、一ノ畑、門井澤、棚小屋澤ノ各堰堤並日川及初鹿野ノ床固ヲ施行シ昭和七年度ニ至リ一時休工セシガ同八年度ニ横吹堰堤水叩保護工事ヲ施行シ茲ニ於テ本川筋ノ工事ヲ完了スルニ至レリ而シテ起工以來ノ累計功程ハ浚深二十六萬一千二百六十二立方米、護岸水制七十六箇所、堰堤十三箇所、床固四箇所ナリ

御勅使川筋ニ於テハ大正五年度ヨリ中巨摩郡蘆安村及源村地内ニ蘆安、源、御庵澤、桃木上流、桃木、藤尾、沓澤、沓澤上流、井出澤、同第二、同第三ノ十一堰堤並蘆安堰堤増設工事及是等ニ附隨スル工事並堰堤ノ補修工事ヲ施行シ起工以來ノ累計功程堰堤十二箇所、床固二箇所、護岸三箇所ヲ算シ昭和八年度ヲ以テ本川筋工事ハ完了スルニ至レリ

尚日川及御勅使川筋ノ工事ノ終リニ近ヅキシ昭和七年度ヨリハ更ニ富士川流域砂防工事ノ追加トシテ釜無川上流並支川早川ノ右支春木川筋ニ工事ヲ施行スル事トナリ昭和七年度ヨリ本年度ニ至ル三箇年度ニ於テ釜無川筋ハ山梨縣北巨摩郡鳳來村及長野縣諏訪郡落合村地先ニ大澤及大澤下流ノ二堰堤、大澤、廣岩、有洞薙及「シロシシ」ノ四護岸、カイケツ「澤床固」、カイツケ「澤、花場坂及貉窟」ノ三山腹工事並本川筋「カイツケ」澤「シロシシ」澤間ノ除石工事ヲ施行竣功セシメ春木川筋ハ山梨縣南巨摩郡本建村地内ニ仲島及枋原ノ二堰堤、枋原床固及同増嵩、枋原、高住及同第二ノ三護岸工事、高住第一水制工事、高住護岸補修工事並流末一

千二百米ノ區間ノ除石工事ヲ施行竣功セシメタリ
左ニ本年度ニ於ケル施工ノ概況ヲ述ベシ

釜無川筋ニ於テハ前年度竣功セルカイツケ澤床固ヲ基礎トシテカイツケ澤山腹工事ヲ施工シ更ニ右支
シロシシ澤下手大崩壊ノ脚部ニシロシシ護岸工事ヲ施行シ尙白谷澤合流點下手對岸貉窟崩壊地ニ貉窟
山腹工事ヲ施行セリ以上ハ右岸山梨縣北巨摩郡鳳來村地先ニ屬スルモノニシテ左岸長野縣諏訪郡落合
村地先内ニハ白谷澤上手花場坂崩壊地ニ花場坂山腹工事ヲ施行セシト共ニ本川筋カイツケ澤合流點ヨ
リシロシシ澤合流點ニ至ル三千二百米ノ區間ニ除石工事ヲ起工シ流路ノ障害トナルベキ轉石ヲ除却シ
堆積砂礫ヲ排除スルニ努メ各工事共年度内ニ竣功セシメ累計功程堰堤二箇所、護岸四箇所、床固一箇所、山
腹工事三箇所並除却轉石及砂礫三千百八十立方米トナレリ

春木川筋ニ於テハ合流點上手六百米、左岸大崖脚部ノ前年度竣功セル高住護岸ニ引續キ高住第二護岸ヲ
施工スルト共ニ枋原床固ヨリ合流點ニ至ル區間ニ除石工事ヲ施シ流水ノ阻害トナルベキ轉石及砂礫ヲ
除却セリ尙關西大暴風雨ノ餘波ヲ被リ本川筋ハ近來稀有ノ大出水ヲ見既設堰堤及床固ハ顯著ナル效果
ヲ發揮セシモ尙甚大ナル流失砂礫ハ下流部ニ於テ亂流決壊ヲ恣ニシ高住護岸ノ脚部ヲ浸蝕シ河狀ヲ混
亂セシメタレバ之ガ整備ノ爲メ高住護岸ニ補修工事ヲ加ヘ更ニ高住第一水制ヲ築設セリ

以上各工事共年度内ニ竣功ニ至ラシメ累計功程ハ堰堤二箇所、床固一箇所、護岸三箇所、同補修一箇所、水制
工事一箇所並除却轉石及砂礫七千三百五十八立方米トナレリ

本年度竣功高ハ五萬二千九百九十八圓ニシテ創業以來ノ累計百五十八萬三千六百六圓トナリ之ヲ總工
費豫算百五十八萬八千二百三十七圓ニ比較スルトキハ約九割九分ノ竣功ニ當レリ其工事竣功表左ノ如

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工護岸水	二五、一六三 立方尺	一〇、〇八四	二八、八八〇 立方尺	一〇、〇八四	二八、八八〇 立方尺	一〇、〇八四	〇・九
工事堰堤	二、二	一、二六〇	二、二	一、二六〇	二、二	一、二六〇	〇・九
事床腹	九	一、〇一〇	九	一、〇一〇	九	一、〇一〇	〇・九
費用地	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	〇・九
船舶及機械	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	〇・九
測量	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	〇・九
營業繕費	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	〇・九
雜費	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	〇・九
共濟組合給與金	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	〇・九
退職手当當	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	〇・九
總計	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	〇・九

第三 信濃川水系砂防工事

緒言

信濃川水系砂防工事ハ昭和七年九月以降農村振興土木事業トシテ千曲川流域砂防工事ニ追加セラレタルモノニシテ該工事開始以來ノ沿革ヲ記センニ最初大正七年以降五箇年度繼續事業トシテ工費豫算三十一萬四千百圓ヲ以テ長野縣下千曲川及左支犀川兩流域ニ於テ急施ヲ要スル荒廢溪流ニ砂防工ヲ施ス計畫ナリシガ着手以來工事ノ進捗ニ努メ殊ニ大正九十兩年度ノ如キハ豫期以上ノ功程ヲ擧ゲ得タルニ依リ追加工事ヲ企テ工費三萬四千五百圓ヲ増額シ工費合計三十四萬八千六百圓(内長野縣負擔額十一萬六千二百圓)ヲ以テ同十一年度終了セシモ尙引續キ砂防施行ヲ要スル箇所多キヲ認メ新ニ工費四十萬八千圓ヲ以テ同十二年度ヨリ昭和六年度迄九箇年度繼續事業トシテ續行シ來レリ然ルニ昭和四年度以降ニ於テ國庫財政ノ緊縮ヲ要スル爲メ繰延又ハ節約減額等ニ依リ結局工費八千九百十圓ヲ減額シ更ニ工期ヲ一箇年度延長シ昭和七年度ニ於テ一旦竣功セシムルコトトナリタリ

然レドモ廣汎ナル千曲川筋及犀川筋兩流域ノ水源地方ニハ此外數多ノ荒廢溪流アリテ之ガ被害モ亦甚大ナリ依テ是等ノ内急施ヲ要スル箇所ヲ撰ビ昭和七年九月以降農村振興土木事業トシテ追加施行スルコトトナリ茲ニ工事名モ信濃川水系砂防ト改メ從來ノ平穩陸郷本郷入山邊各砂防工事ノ完成ヲ期スルノミナラズ猶新規ニ梓川筋(南安曇郡安曇村)檜澤川筋(北安曇郡廣津村)等ノ砂防工事ニ主力ヲ傾倒スルコトトナリタリ

因ニ創業以來ノ豫算總額ハ九十四萬七千三百七十一圓ニシテ内昭和七年度以降ノ追加豫算ハ七年度分六萬圓、八年度分八萬五千六百八十一圓及九年度分五萬四千圓ナリ

河狀竝計畫大要

一、梓川筋（信濃川水系砂防工事新規企業）

梓川ハ犀川ノ本流ニシテ其源ヲ日本アルプスノ最高峰槍ヶ嶽（標高三千七百七十九米五）及大天井嶽（標高二千九百二十二米一）ニ發シ次第ニ東西ヨリ小流ヲ合セテ南流シ上高地盆地ニ下リ之ヲS字狀ニ流過シテ一旦大正池ニ休ム此S字狀流路十三軒ノ區間ハ絕景上高地ノ仙境ニシテ平均勾配百六十分ノ一白ク明ルキ花崗岩質砂礫ノ河床上ヲ流レ清澄透徹ナルコト藍ヲ流セルガ如キ清流ナリ

大正池ハ大正四年燒嶽ノ噴火ニ依リ押出サレタル泥流ガ上、中、下ノ三堀澤ヲ流下シ梓川ヲ堰キ止メ生ジタルモノナルガ其後漸次當時ノ泥流ハ押流サレ又中下兩堀澤ヨリハ降雨毎ニ粗鬆ナル噴火堆積物ノ流失アリ之ガ爲メ清流ハ濁流ト化シ且釜隧道狹窄部附近ヨリ河床勾配モ急變シ激流奔放兩岸ノ浸蝕ヲ逞シウシ奈川渡下流ニ至ルマデ荒廢最モ甚シク砂防工事ノ急施ヲ要スル箇所多シ之ヨリ下流ハ深キ溪谷ヲ爲シ波多村赤松地先ニテ漸ク山間部ヲ脱シ筑摩野ニ下リ東流スルコト十八軒右ニ奈良井川ヲ合シテ犀川トナル流路延長六十七軒、流域面積六百二十七平方軒ナリ砂防工事施行地トシテ指定セラレタル區域ハ上述ノ如ク大正池ヨリ下流水殿澤合流點ニ至ル荒廢甚シキ二十三軒ノ區間ニシテ其間本流筋沿岸ノ崩壞地坂卷、保田小屋等ニハ先ヅ法留工ヲ築設シテ之ヲ基礎トシ後山腹工ヲ施シ之ガ固定ヲ計リ釜隧道附近狹窄部ニ於テハ高三十米ニ達スル砂防堰堤ヲ築設シテ上流燒嶽噴火物堆積地帶、大崩壞地、砂防工

事ノ基礎タラシメ逐次下中上三堀澤ノ荒廢溪流ヲ始メントス又此區域中支川赤谷障子川瀬湯川等ニハ先ヅ堰堤ヲ施工シ崩壞山脚ノ缺潰ヲ防ギ以テ本流ニ及ボス惡影響ヲ除去スルノ計畫ナリ

二、檜澤川筋(信濃川水系砂防工事新規企業)

本川ハ北安曇郡廣津村大日向地先ニ於テ犀川ニ注グ左支溪ニシテ流路延長四軒六、流域面積五平方軒八ナリ流域ハ總テ第四期洪積層ニ屬スル粘土質ノ丘狀地ヨリ成リ水源地帶ノ小局部ヲ除キテハ殆ド山頂マデ開墾シ盡サレ梅雨又ハ豪雨ニ際シ溪流ノ洗掘ヲ招キ惹イテ山腹面ノ地ニリヲ生ズルノ因ヲ爲セリ從來同流域ハ交通不便ニシテ未ダ砂防工事ノ施サレタルモノナク自然ノ侵蝕ニ放任セラレタルヲ以テ治水上寒心ニ耐ヘザルモノ在ルノミナラズ住民ノ脅威少ナカラズ人家耕地ノ被害モ蓋シ甚大ナレバ昭和七年度以降信濃川水系砂防新規計畫ニ屬シ先ヅ左支橫澤ニ堰堤數個ヲ施工シ溪床ノ固定ヲ計リ以テ山腹ノ地ニリヲ防禦スルコトトセリ

三、女鳥羽川筋(千曲川流域砂防工事以來繼續事業)

本川ハ犀川ノ右支ニシテ其上流ハ中ノ澤及本澤ノ二流ニ分レ前者ハ東筑摩郡袴腰山(標高一千七百五十三米)ヲ源トシ後者ハ小縣東筑摩兩郡界三才山峠(標高一千五百六米)ヨリ發スルモノニシテ本鄉村字一ノ瀬ニ於テ合流ス流路延長約十軒、流域面積十八平方軒トス之ヨリ同村字三才山ノ東ヲ西北ニ流下シ字稻庫ヨリ南下シ松本市ヲ貫流シテ田川ト合シ更ニ北流シテ犀川ニ入ル此流水距離約二十八軒トス一ノ瀬ヨリ上流ハ溪床急峻ニシテ沿岸ニ山腹崩壞箇所多ク大崖、鳥谷水、大ナギ等ハ最大ナルモノトス豪雨出水毎ニ多量ノ土砂ヲ流下シ被害激甚ナルヲ以テ大正七年八月起工以來主トシテ堰堤(二十四箇所)ヲ築設シテ勾配ヲ緩和シ溪床ヲ安定セシメ次デ護岸工、山腹石積工、水路張石工、積苗工等ノ順ニ施行シ山腹ノ固定

ヲ計リシガ大正十年十二月ヲ以テ各種工事ノ竣功ト同時ニ一旦中止シ山地ノ動靜ヲ監視セリ然ルニ其後堰堤ノ流失、各種工事ノ損傷ヲ蒙リシモノ尠カラズ依テ昭和五年八月更ニ工事ヲ開始シ堰堤ノ復築、補強、護岸ノ補修等ヲ施シタリ

尙信濃川水系砂防工事トシテハ本澤筋ニ堰堤二箇所、下流右支溪品庄澤ニ堰堤數箇所及山腹工等ヲ施行シ砂防工事ノ完成ヲ期スルコトトセリ

施工狀況

一、梓川筋

本年度ニ於テ障子川瀬澤第一號本副兩堰堤ヲ竣功セシメ崩壞山脚ノ固定ト土砂流失ノ防止トヲ計リタル爲メ堰堤下流ノ溪床ヲ低下シ本川ノ洪水疏通ニ對シテモ好影響ヲ及ボセルコト尠シトセズ

保田小屋ニ於テハ七月十二日ノ大洪水ニ依リ倒壞セル法留工約百四十米ノ補修ヲ完成シ次デ大被害ヲ蒙レル山腹工ニ對シテハ谷留工ヲ階段的ニ十箇所築設セシ外筋工、石芝積立工ノ復舊ニ努メ設計ノ約七割五分ヲ竣功セリ又坂卷下ニ於テハ第一號山腹工ハ前年度ヨリ繼續施行シ概ネ其目的ヲ達成シ同谷留水路張石工ハ谷留工二箇所ヲ竣功セシメタリ

二、檜澤川筋

左支溪横澤ニ於テ前年度略完成ノ域ニ在リシ第三號堰堤ヲ竣功セシメ更ニ第四號堰堤ニ着手セリ

三、女鳥羽川筋

品庄澤筋ニ於テ第一號堰堤ヲ前年度ヨリ繼續施行シテ完成セシメタル外既設第三號堰堤ノ床固工ヲ竣

功セシメタリ

以上本年度ニ於ケル竣功額ハ五萬五千二百三十九圓ニシテ起工以來ノ累計九十四萬四千八百三圓ナリ
之ヲ總工費九十四萬七千三百七十一圓ニ比スルトキハ約九割九分ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ但
シ表中「▲」ハ寄附ニ係ル工費ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功割合
	數	金額	數	金額	數	金額		
本工事費		▲ 11,560.00 11,560.00		▲ 11,560.00 11,560.00		▲ 11,560.00 11,560.00	▲ 11,560.00 11,560.00	100%
堰腹堤		11,000.00		11,000.00		11,000.00	11,000.00	95.2%
山		1,200.00		1,200.00		1,200.00	1,200.00	100%
護		1,200.00		1,200.00		1,200.00	1,200.00	100%
材料運		10,600.00		10,600.00		10,600.00	10,600.00	100%
用地		1,000.00		1,000.00		1,000.00	1,000.00	100%
船舶及機械		2,750.00		2,750.00		2,750.00	2,750.00	100%
測量		1,175.00		797.00		1,175.00	1,175.00	100%
營業繕		1,200.00		3,180.00		1,200.00	1,200.00	100%
臨時職手		1,200.00		1,200.00		1,200.00	1,200.00	100%
退職手当		47.00		47.00		47.00	47.00	100%
雜費		1,000.00		1,790.00		1,000.00	1,000.00	100%
共濟組合給與金		3,790.00		3,790.00		3,790.00	3,790.00	100%
總計		▲ 48,950.00 48,950.00		▲ 55,110.00 55,110.00		▲ 104,060.00 104,060.00	▲ 104,060.00 104,060.00	100%



第四 鬼怒川流域砂防工事

緒言

本工事ハ大正六年度ヨリ昭和四年度ニ至ル十三箇年度繼續事業トシテ總工費三十九萬圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ其後諸物價ノ騰貴ノ爲メ大正八年度以降三回ニ亙リ二十七萬四千五百圓ヲ増額シ總工費ヲ六十六萬四千五百圓ニ改メ施行年限ヲ三箇年度延長シ昭和七年度迄ニ竣功セシムルコトナレリ然ルニ一般財政緊縮ノ爲メ昭和五年度以降ニ於テ工費一萬三千二百二十九圓ヲ減額シ總工費ヲ六十五萬一千二百七十一圓ニ改メ施行年限ヲ延長スルト共ニ農山村振興ノ爲メ昭和七年度ニ於テ六萬圓時局匡救ノ爲メ同八年度ニ於テ九萬圓及同九年度ニ於テ五萬四千圓ヲ追加増額シ總額八十五萬五千二百七十一圓ヲ以テ施行スルコトナレリ

其區域ハ栃木縣上都賀郡日光町鬼怒川支川大谷川筋及支川稻荷川筋並同川小支荒澤及鳴澤筋同縣鹽谷郡三依、栗山兩村地内ノ鬼怒川支川男鹿川、左支大鹽澤筋及男鹿川右支湯西川、左小支廣手澤及明田澤筋ナリトス

河狀並計畫大要

稻荷川ハ源ヲ日光町ノ北部女峰山(標高二千四百六十三米)及赤薙山(標高二千百米)ニ發シ幾多ノ溪流ヲ合セ神橋ノ下流約三百米ノ箇所ニ於テ大谷川ニ合流ス流路延長八軒五、流域面積九平方軒アリ平均河床勾

配十分ノ一強ニシテ大谷川合流點附近ニ於テモ尙十三分ノ一ノ急勾配ヲ示セリ流域山地ハ地質極メテ軟弱ナルト地勢急峻ニシテ林相粗ナルニ加ヘ屢々豪雨アルヲ以テ山地ハ歲ト共ニ崩壊ノ度ヲ増シ出水ノ際ハ多量ノ土石ヲ流下シ時ニ土石流ヲ起シテ一個ノ大サ數十立方米ノ大轉石ヲ押流ス事アリ是等ハ下流川幅廣キ箇所ニ堆積スルヲ以テ河床ニハ轉石累累横ハリ流身變動シ亂流ハ兩岸ヲ浸蝕崩壊シ治水上多大ノ障害ヲ來シ本邦稀ニ見ル荒廢河川ナリ依テ中流部ニ十數箇所ノ堰堤ヲ築設シ流下土石ヲ扞止スルト共ニ河床ノ低下ヲ防止シ尙合流點附近ニ數箇所ノ床固付水制ヲ設ケ流身ノ矯正ヲ計ラントスルルニ在リ

荒澤ハ源ヲ小眞名子山（標高二千二米）ニ發シ女峰山、男體山（標高二千四百八十四米）等ヨリ發スル數多ノ溪流ヲ合セ大谷川ニ合流ス流路延長十一粁流域面積二十四平方粁アリ河床勾配ハ川口附近ニ於テ二十五分ノ一ヲ示セリ本流域地質ハ稻荷川ノ如ク不良ナラズ裏見瀧（川口ヨリ二千七百米）以上ニハ瀑布多ク河床ハ殆ンド岩盤ヲ露出シ浸蝕作用甚シカラズト雖モ男體山ヨリ發スル溪流ハ其厚キ火山灰層ノ山腹ヲ浸蝕スルヲ以テ土石ノ流下ハ激甚ナリトス依テ適當ノ地點ニ數箇所ノ堰堤ヲ築設シ流下土石ヲ扞止スルモノトス

鳴澤ハ源ヲ赤薙山（標高二千百米）ニ發シ南々東ニ流レ省線日光停車場ノ對岸ニ於テ大谷川ニ合流ス流路延長十二粁流域面積六平方粁四アリ河床勾配ハ澤口附近ニ於テ十五分ノ一トス本流域ヲ構成スル岩石ハ安山岩及集塊質泥流ヲ主トシ上流ニハ河床一帯ニ安山岩盤ヲ露出スル所多ク川口ヨリ五千五百米以上ニハ高五米内外ノ小瀑布數箇所アリテ河狀良好ナリ然レドモ下流部ハ大部分集塊質泥流ヨリ成リ河狀不良ナリ流域内崩壊ノ大ナルモノハ水源附近ニ在リ其他川ノ兩岸ニハ到ル所小崩壊在リテ砂礫ノ生

產相當大ナリ依テ下流部適當ノ地點ニ堰堤ヲ築設シ流下土石ヲ并止セントス

大谷川ハ源ヲ名瀑華嚴瀧壺(標高一千四百四十一米)ニ發シ深澤、荒澤、田母澤、稻荷川、鳴澤ノ各支流及其他幾多ノ溪流ヲ合セ日光町ヨリ今市町ヲ經テ豐岡村地先ニ於テ鬼怒川ニ合流ス流路延長三十軒、流域面積ハ水源ヨリ神橋ニ至ル區間約八十六平方軒アリ

抑モ大谷川ニ於ケル神橋下手ノ河床ハ上流部ニ於ケル砂防工事ノ進捗ニ伴ヒ著シク河床ノ低下ヲ來シ洪水毎ニ激流ハ先ヅ神橋下手ノ左岸ヲ衝キ洗掘ヲ逞フシ護岸水制ヲ脅カシ更ニ稻荷川ト合流シテ流身ヲ變ジ右岸目光町ヲ襲ヒ護岸水制ノ脚部ヲ洗ヒ年々之ガ補強ニ莫大ノ經費ヲ要スルノミナラズ洪水毎ニ人心恟々タリ而モ災害ハ年ト共ニ益々増加スルノ傾向アリ依テ數箇所ノ床固及水制ヲ築設シ河床ノ低下ヲ防止シ併セテ流路ヲ一定セシメ兩岸ニ激衝スルヲ避ケントスルモノナリ

男鹿川ハ源ヲ男鹿嶽(標高一千七百七十七米)ニ發シ栃木縣鹽谷郡三依村大字中三依ニテ右支入山澤及芹澤、同村大字五十里ニテ左支大鹽澤海跡ニテ大支川湯西川ヲ合セ藤原村大字高原ニ至リ鬼怒川ニ合流ス此附近標高五百米弱トス流路延長三十五軒、流域面積二百八十七平方軒アリ水面勾配一般緩ニシテ湯西川合流ノ海跡附近ハ平均勾配三百分ノ一内外ナルモ上流並各支流ニ望ミ漸次勾配急トナル流域地質ハ第三紀ニ屬スル角綾凝灰岩ニシテ龜裂アルモノ多ク崩壞各所ニ點在ス森林ハ大部分國有林ニ屬シ林相良好ナリト雖モ逐年薪炭材ニ伐採シツツアルヲ以テ地質ノ不良ト相俟ツテ將來益々荒廢ヲ亢進スル虞レアリ

大鹽澤ハ源ヲ三依山(標高一千三百五米)ニ發シ流路延長六軒一、流域面積十四平方軒アリ三依村大字五十里ニ於テ男鹿川ニ合流ス河床勾配二十分ノ一乃至五十分ノ一ヲ有ス

廣手澤ハ源ヲ高瀬山(標高一千二百七十六米)ニ發シ湯西川ト男鹿川トノ合流點ヨリ上流二軒ノ地點ニ於テ湯西川ニ注グ流路延長二軒五流域面積二平方軒二アリ河床勾配平均四十分ノ一ヲ示セリ
明田澤ハ源ヲ持丸山(標高一千三百六十五米)ニ發シ湯西川ト男鹿川トノ合流點ヨリ上流四軒六ノ地點ニ於テ湯西川ニ注グ流路延長三軒七流域面積四平方軒アリ河床勾配平均十三分ノ一ヲ示セリ本澤ハ豪雨毎ニ砂礫及岩片ヲ流送シ被害著シク前年度既ニ堰堤工事ヲ施行セシガ尙本年度モ適當ノ箇所ニ砂防工事ヲ施行シ流下土石ヲ扞止セントス

施工狀況

本工事ハ大正七年度ニ於テ先ヅ稻荷川筋ニ施工ヲ開始シ前年度迄ニ稻荷川筋ニ堰堤十七箇所、床固四箇所、捨石工事一箇所、既設堰堤補修七箇所、堰堤増補六箇所、荒澤ニ堰堤二箇所、鳴澤筋ニ同一箇所、大谷川筋ニ床固一箇所、床固増補一箇所、水制一箇所、大鹽澤及廣手澤筋ニ堰堤各一箇所、明田澤筋ニ同一箇所ヲ施工シテ之ヲ竣功セシメタル結果何レモ多大ノ成果ヲ收メツツアリ就中稻荷川筋ニ於テハ河狀頓ニ改マリ昔日ノ荒廢狀態ハ再見スルヲ得ズ其效果愈々顯著ナリ

本年度施行セル工事ハ大谷川筋ニ大谷川第二床固、大谷川床固並大谷川護岸工事及明田澤合流點ヨリ四百七十七米ノ箇所ニ明田澤下流堰堤工事ヲ起工シ何レモ年度内ニ竣功セシメタリ

本年度竣功高ハ五萬五千四十一圓ニシテ創業以來ノ累計ハ八十五萬四千七百九十一圓トナリ之ヲ總工費豫算八十五萬五千二百七十一圓ニ比較スルトキハ九割九分餘ノ竣功ニ當レリ其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「△」ハ評價品價額ヲ示ス

費目	本年度竣工高				前年度竣工高			
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
本工費	堤	五三、八二五	二	三、八〇三	五	九四、八六六	二	五三、八二五
工事費	護岸	三、六九九	一	三、六九九	一	一五、九九五	一	二、九四八
船及機械費	船及機械	三、一四三	一	三、一四三	一	三、一四三	一	三、一四三
測量費	測量	二	二	二	一	三、六八三	一	三、六八三
營業費	營業費	八	八	八	一	九、六三七	一	九、六三七
雜費	雜費	六、七八九	一	六、七八九	一	九、一二八	一	九、一二八
共濟組合給與金	共濟組合給與金	二、四四〇	一	二、四四〇	一	三、一九四	一	三、一九四
總計		八〇、九八四	七	八〇、九八四	一	一八、二二二	一	一八、二二二
竣工歩合	竣工歩合	八〇・九	八〇・九	八〇・九	八〇・九	八〇・九	八〇・九	八〇・九

第五 常願寺川流域砂防工事

緒言

常願寺川ハ富山縣屈指ノ大河ニシテ水利ノ恩惠ヲ受クルコト甚大ナリ然ルニ安政五年二月二十六日越前、越中兩國ノ大地震ニ依リ本川水源地上新川郡立山温泉附近ナル大鳶山、小鳶山崩裂シテ常願寺川上流ノ湯川、眞川ノ溪流ヲ壅ギシガ三月十日ニ至リ決潰シ家屋百二十餘軒流失ス震後二箇月ヲ經テ四月二十六日再ビ泥川ノ決潰在リ百三十五箇村ヲ通ジテ溺死者百四十人、流失浸泥家屋一千四百五十八軒ニ及ベリ爾來河狀一變シ逐年砂礫ノ流失夥シク河流沿岸ノ被害亦甚シキニ依リ同縣ニテハ國庫ノ補助ヲ仰ギ工費百十三萬一千餘圓ヲ投ジ明治三十九年度ヨリ大正十一年度迄繼續事業トシ銳意砂防工事ニ努メ完成ノ域ニ達セシニ偶々大正十一年七月ノ豪雨ニ際會スルヤ十七箇年間ニ施行セシ前記工事ハ根底ヨリ破壊セラレ益々工事至難トナリシニ依リ大正十五年度ヨリ昭和九年度ニ至ル九箇年度間繼續事業トシテ總工費二百七十三萬六千圓(內富山縣負擔九十一萬二千圓)ヲ以テ國ニ於テ直接施行スルコトナレリ然ルニ昭和六年度以降年度割額改訂ニ伴ヒ工期ヲ五箇年度延長シ工費五十一萬五千七百三十八圓ヲ減ジ總工費二百二十二萬二百六十二圓(內富山縣負擔七十三萬六千九百四十五圓)ヲ以テ昭和十四年度ニ於テ竣功セシムルコトナレリ

河狀並計畫大要

常願寺川ハ源ヲ富山縣藥師ヶ嶽(標高二千九百二十六米)及立山(標高二千九百九十二米)ニ發シ上瀧町附近ニ至リ平野ニ出デ上新川、中新川兩郡界ヲ貫流シテ日本海ニ注グ其流路延長五十六粍餘平坦部ヲ流ルルコト十九粍餘ニ過ギザルモ此間灌漑ノ利潤夥シク灌田面積一萬二千四百ヘクタールニシテ堤防ハ僅カニ點在スルニ止マリ流身深ク自然ノ護岸ニ依リテ容易ニ沿岸ヲ保護シ得タリ然ルニ安政年間ニ於ケル大地震ニ依リ河狀著シク變化シ逐年砂礫ヲ押流シ下流河幅廣キ箇所ニ堆積シテ流身ノ變動ヲ招キ亂流ハ沿岸ヲ決潰シ治水上種々ノ障害ヲ惹起シツツアリ故ニ本川ニ對シ徹底的ニ工事ヲ施行センニハ極メテ多額ノ工費ヲ要スルニ依リ差當リ本川上流部ニ於テ堰堤ヲ設ケ川床ノ低下ヲ防グト同時ニ流下土石ヲ扞止スルモノトス而シテ其計畫ハ湯川本流中唯一ノ岩盤露出セル箇所(白岩地先)ニ一大堰堤ヲ築設シ以テ兩岸山腹ノ崩壞ヲ防止スルト共ニ多量ノ土石ヲ堆積セシメ河床ノ一定勾配形成ヲ待チ其上流ニ順次十數個ノ堰堤ヲ設置シ白岩ヨリ立山溫泉下流部ニ至ル湯川本流筋ノ崩壞ヲ治メ又最モ荒廢セル出シ原谷ニ對シテハ同溪流ト湯川本流ノ合流點ニ施設スル堰堤ヲ基礎トシテ是亦數箇所ニ堰堤ヲ設置セントスルモノナリ

施工狀況

本工事ハ大正十五年度ノ創業ニシテ先ヅ工事材料運搬ニ供スル爲メ富山縣中新川郡立山村藤橋地先ヨリ同村水谷平ヲ經テ白岩堰堤築設箇所ニ至ル總延長約十六粍ノ道路並軌道敷設工事及ビ是等ニ附帶スル運搬設備諸工事ヲ施行シ次デ堰堤箇所ニ於ケル工事用諸設備ヲ整ヘツツ昭和四年度ヨリ堰堤護岸工事ニ着手セリ斯クテ諸設備ハ六年度ヲ以テ大成シ漸ク本格的工事ヲ施行シ得ルニ至レリ即チ本砂防工

事ノ主眼タル白岩堰堤築造ノ準備工作トシテ昭和四年度末着手ニ至レル白岩堰堤上流第一號護岸工事ハ五年度ニ於テ之ヲ略々竣功シ以テ左岸山脚ノ洗掘並脆弱ナル堰堤左袖部突破ノ脅威ヲ絶チ六年度ニ入ルヤ白岩堰堤基礎工事ヲ起シ其頂高ヲ第一號護岸底面即堰堤上流踵附近ノ岩盤高ト一致セシメ同年度内ニ竣功シ尙餘力ヲ以テ白岩堰堤本體工事ニ着手シ同年度内ニ一千七十九立方米ヲ築立シ爾來之ヲ續行スルト共ニ護岸工事ヲ併セ施行シ七年度ニ於テハ堰堤三千九百七十六立方米、八年度ニハ同四千二百立方米ノ築立ヲ成功セリ

施工地域ハ名ニシ負フ立山連峰ノ中腹ニシテ平地ヲ距ル四十餘軒、山容峻嶮、標高一千米内外ノ奥地ニ在リ晚秋早クモ降雪ヲ見初夏猶殘雪堆積スルヲ恒トスルガ故ニ工期ハ毎年五月ヨリ十月ニ至ル半歳ニ過ギズ而モ夏期ハ降雨量多ク出水頻繁ニシテ爲メニ工程ノ進捗ヲ妨グルモノ少シトセズ其他器械ノ運搬従業員ノ收容等百般ノ事象ニ關シ常ニ多大ノ不便ト困難トヲ感ジツツアリ

本年度ハ既定年度制豫算ノ外時局匡救トシテ十三萬六千圓ヲ繰上施行スルコトトナリシヲ以テ大ニ工事ノ進展ヲ期シタリシモ昭和八年冬期ノ降雪ハ數十年來稀有ノ現象ヲ呈シ九年春三月下旬スキ登山ヲ敢行シテ調査セルトコロニ依レバ施工地域ニ於ケル積雪尙五米餘ニシテ嚴冬時ノ最高雪量ハ推知シ難キモノアリ從ツテ施工地ニ在ル幾多ノ建物其他工事用諸設備ハ概ネ倒壊ノ厄ニ遇ヒ延長十六軒ニ互ル運搬軌道亦異常ノ損害ヲ蒙リタルガ故ニ融雪ヲ待ツテ五月中旬ヨリ従業員ヲ登山セシメ專ラ其恢復ニ努メ六月中旬漸ク工事開始ノ運ビニ至レリ

然ルニ工事最盛期タル七月上旬ヨリ中旬ニ互リ北陸地方ヲ襲ヘル豪雨ニ際會シ創業以來未曾有ノ災害ニ遭遇セシ爲メ五旬ノ久スキニ互リ之ガ復舊ヲ圖リ八月下旬ヨリ本格的ニ工事ヲ施行シ得ルニ至リシ

ガ凡ソ是等ノ情勢ハ工事ノ進捗ニ障碍ヲ與フルコト甚大ニシテ施工ノ前途ニ一抹ノ暗翳ヲ投ジタリシモ勇躍奮勵日夜操業ヲ繼續シテ所期ノ成果ヲ收メ降雪ト共ニ十一月十日ヲ以テ工事ヲ休止セリ年度内
功程次ノ如シ

堰堤工事

白岩堰堤築設工事ハ本年度施行ノ順序トシテ先ヅ堰堤水通部ノ築立ヲ行フコトトシ掘鑿ノ進行如何ハ全功程ニ至大ノ影響ヲ及ボスベキヲ以テ主力ヲ之ニ傾注シ掘鑿土石ノ運搬ニハトロ及畚ヲ併用シ起重機ノ全能力ヲ發揮セシメ晝夜操業ニ交代或ハ三交代トシテ進捗ヲ圖リシガ七月中旬ノ豪雨出水ノ爲メ功程ノ大半ヲ埋沒セラレ加フルニ右岸山腹ノ崩壞ニ因リ掘鑿地内ニ侵入セル土石量約二萬立方米ヲ算シ工事ニ一頓挫ヲ來セシモ極力之ガ排除ニ努メ年度内施工八十四日ニシテ掘鑿土石量二萬八千九百六十四立方米、累計二萬九千九百十五立方米ニ及ビ設計土石量一萬五千三百三十四立方米ノ一倍九ニ達ス水通部ハ基礎面上三十三米四ニ築立シテ大略竣功セシメ袖部ニ於テモ基礎面上平均三十米ニ築立シ第二假排水路ヲ閉鎖シ基礎面上二十六米ニ底敷ヲ有スル第三假排水路ニ本流ヲ上昇放流セシム尙放水路ニハ脆弱ナル左岸山脚ノ防護トシ其溢流ヲ遮斷スル目的ヲ以テ導水堤ヲ築造スルコトトシ其一部ヲ施行セリ年度内混凝土築立量七千十立方米、累計一萬六千二百六十六立方米ニシテ設計築立量二萬一千三百五十九立方米ニ對シ七割六分ノ成功トス

護岸工事

第三號護岸ハ既成第二號護岸上ニ重築スル階段型擁壁ニシテ前年度中其大部分ヲ成功シ本年度ハ左岸山脚及既設裏埋被覆工（木工沈床疊築）ノ防護並永久的施設トシテ堰堤下流九十六米ノ地點兩岸岩盤ノ最

狹隘部ト本護岸天端高トヲ結ブ二割二分ノ勾配ヲ成セル裏理工施行ノ基礎トシテ築造スベキ混凝土土留擁壁ノ一部ヲ施行セリ

第四護岸工事ハ第三號護岸上ニ築造スルモノニシテ堰堤接續部ニ於テ天端標高一千九十米トシ十五分ノ一勾配ヲ以テ上流岩盤ニ取付ク前面ハ石積垂直十米ノ高サヲ有シ敷幅七米、背面ハ階段型天端三米五トス第三號護岸工ノ進捗ニ伴ヒ九年六月着手セシモ七月豪雨出水ノ爲メ施工停頓シ年度内積石五十七立方米ヲ採取セシニ止マル

雜工事

千丈ヶ原地先ヨリ白岩堰堤築設箇所ニ至ル間常願寺川右岸ノ斷崖絶壁ヲ開鑿敷設セル蜿蜒十六軒ニ餘ル運搬軌道ハ頽雪及落岩ノ爲メ隨所ニ棧道ノ損傷擁壁ノ決潰等異常ノ災害ヲ蒙リタルヲ以テ其大補修ヲ行ヒテ雪害ノ恢復ヲ圖リシガ夏期豪雨出水ニ會ヒ再ビ大災害ヲ被ルニ至リシヲ以テ逐次補修工事ヲ起シ之ガ保全ニ努メタリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ二十五萬四千二百四十九圓ニシテ創業以來ノ累計百六十一萬七千四百四十九圓トナリ總工費二百二十二萬二百六十二圓ニ對シテ約七割三分ノ竣功トス其工事竣功表次ノ如シ但シ本省ニ於テ支出シタル九千五百圓ト土木出張所ニ補給ノ三千七百四十圓トノ合計一萬三千二百四十圓ヲ本年度ヨリ雜費中前年度迄竣功高ヘ加算計上セリ

費目	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合 計		竣歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工〔護岸〕	未竣工 二〇九、七九六	二四、六七九	未竣工 二〇九、七九六	二四、六七九	未竣工 二〇九、七九六	二四、六七九	〇・四
事費〔堰〕	未竣工 一、八六六	一、八六六	未竣工 一、八六六	一、八六六	未竣工 一、八六六	一、八六六	
用地	—	五八	—	—	—	—	—
船舶及機械	—	一、二〇九	—	一、二〇九	—	一、二〇九	—
測量	—	四、三三三	—	四、三三三	—	四、三三三	—
營業繕費	—	一〇、一三三	—	一〇、一三三	—	一〇、一三三	—
雜費	—	三、二九一	—	六、四八七	—	六、四八七	—
共濟組合給與金	—	四、一四六	—	六、〇〇〇	—	六、〇〇〇	—
總計	—	四〇、〇二九	—	四三、三〇一	—	四三、三〇一	〇・四

第六 手取川流域砂防工事

緒言

本工事ハ昭和二年度ヨリ十三箇年度繼續事業トシ總工費百九十一萬一千圓(内石川縣負擔六十三萬七千圓)ノ處昭和四年九月國庫財政緊縮ノ爲メ總工費百八十四萬一千三百二十五圓(内石川縣負擔六十一萬三千七百七十五圓)ニ更ニ昭和六年九月實行豫算改定ニ伴ヒ總工費百六十二萬四千二百四十三圓(内石川縣負擔五十三萬三千五百六十圓)ニ減額シ尙昭和八年度ニハ改定總工費ヲ百四十九萬二千八百九十二圓ニ減額シタル計畫豫算ヲ以テ石川縣能美郡白峰村字柳谷甚之助谷、龍ヶ馬場溪ニ施行スルモノナリ而シテ本工事ニ就テハ既ニ明治四十四年石川縣ニ於テ其調査ヲ爲シ砂防工事施行ノ必要ヲ認メ大正元年度ヨリ國庫ノ補助ヲ得テ大崩壊地域タル柳谷上流及甚之助谷ニ於テ練石積堰堤、山腹工事等ヲ施行シ昭和元年度ニ及ビタルモノニシテ其工費七十萬六千餘圓ナリ

河狀並計畫大要

白山ハ加賀、飛彈ノ兩國ニ跨リ頂上ハ御前、劔、大汝ノ三峰ニ岐ル就中御前岳ハ最高峰ニシテ國幣中社白山比咩神社奥宮ヲ祀ル標高二千七百二米、地質ハ侏羅層中ノ中世紀層ヲ主トス所謂手取層ト稱スルモノニシテ半鹹半淡水中ニ沈成シ礫岩、粘盤岩等ノ累層ヨリ成レリ而シテ上記三峰ハ即チ外輪山ニシテ環狀ヲ爲シテ相連リ内側ニ向ツテ急傾斜ヲ爲シ中ニ盃狀ヲ爲セル噴火口ノ跡アリ御前岳ト大汝トノ間ニハ小

噴火口又ハ硫氣洞ノ跡ト認メラルモノ尠カラズ有史以來白山噴火屢々ニシテ就中延應元年、天文二十三年ニ起リシモノ等ハ最モ著名ナリ

御前岳ノ裳ニ展開セル彌陀ヶ原ハ高山植物ノ繁生ヲ以テ名アリ而シテ此高原ノ東側ニ發スル溪流ハ萬歲谷ト稱シ不動瀧ノ水源ヲ爲ス甚之助谷ハ其南側ニ發シ左支龍ヶ馬場溪ヲ合セ大崩壊地域ヲ通過シテ不動瀧ノ水ト合ス此合流點以下ヲ柳谷ト稱ス崩壊地域ハ甚之助谷、龍ヶ馬場溪及柳谷ニ互リ延長約四料崩壊面積約六十六萬平方米餘（標高一千三百米乃至二千米）ノ間ニ位置ス地勢極メテ峻峻ニシテ其溪流勾配ハ龍ヶ馬場溪及甚之助谷ハ共ニ約二分ノ一、柳谷ハ約五分ノ一トス而シテ是等諸溪ノ大崩壊ノ主因ハ主トシテ白山噴火ノ影響ニ依リ硫氣作用ヲ感受シタルモノニシテ其作用ハ深ク内部ニ及ビ以テ風化水蝕ヲ容易ナラシムルモノナリ

林相ハ概シテ良好ニシテ柳谷、別當谷合流點附近（標高一千三百米）ハブナ樹ノ密林ニシテ白樺ヲ交ヘ甚之助谷及龍ヶ馬場溪方面（標高一千六百米乃至二千米）ニ至リテハ白樺、ミヤマハンノキヲ交ヘ熊笹密生ス白山砂防地崩壊ノ激甚ナルト溪流勾配ノ急ナルトハ前述ノ如ク到底姑息ナル工法ニ依ル能ハザルハ瞭カニシテ専ラ練積堰堤工事ニ依リ浚流勾配緩和ヲ圖リ以テ山脚ノ浸蝕崩壊ヲ防止スルノ外途ナキニ依リ石川縣ニ於テ施設セル柳谷、甚之助谷ノ各堰堤上流部ニ是等現存堰堤ヲ基礎トシタル階段堰堤ヲ設置セントスルモノナリ然ルニ昭和五年七月ニ於ケル稀有ノ出水ニ依リ字甚之助谷右岸山腹ニ於テ大崩壊ヲ生ジ附近ノ溪谷一帯ニ互リ大變化ヲ來シテ流路ノ位置ヲ變換シ爲ニ基本計畫ノ一部ヲ變更セザルベカラザル狀態ニ陥リタリ然ルニ昭和九年冬期ハ例年ニ見ザル降雪量多ク七月ニ入ルモ白山々脈一帯ニ尙多量ノ殘雪ヲ存シ梅雨期ニ入ルヤ氣溫昇騰セルガ爲メ融雪頓ニ多ク各所ニ崩雪ヲ生ジ地盤軟弱トナ

リシガ恰モ七月九日ヨリ十一日ニ亙リ未曾有ノ豪雨襲來シ加之強風ヲ伴ヒ爲ニ各溪谷一時ニ大崩壞ヲ生ジタリ幸ヒ工事施行中ノ谷筋ニ於テハ工作物ノ被害輕少ナリシモ各谷筋ヨリ流出セル土石流ニ依リ山容革マリ下流沿岸ニ及ビタル奔流ノ横溢ハ其猛威ヲ逞フシ慘害甚大ヲ極ム斯ル狀態ナルヲ以テ今後ハ更ニ河狀ノ變化其他ヲ調査シ之ニ適應スル施設ヲ爲サントス

施工狀況

本工事ハ昭和二年度ノ創業ニシテ直ニ施行準備ニ着手シ同年八月ヨリ起工セリ

本年度ニ於テモ現場ノ融雪期ヲ待チテ冬季中崩雪ノ爲メ破損セシ事務所、係員詰所、人夫小屋等ノ修繕ヲ爲シ引續キ其他ノ調査及諸準備ヲ整ヘ昭和九年六月九日全部金澤市内假事務所ヨリ現場ヘ移轉ノ上前年度起工ノ柳谷第十六號及本年度計畫ノ甚之助谷第二十一號、甚之助谷上第十七號ノ各堰堤工事ヲ施行セリ然ルニ七月中旬突如襲來セル大水害ニ依リ事務所其他ノ建物、材料機械ノ大部ヲ流失シ剩ヘ運搬道路缺壞ニ因リ施工不可能ノ狀態ニ陥リタルヲ以テ一ト先ヅ金澤市假事務所ニ於テ執務スルコトトセシモ此間ニ於テ諸調査ヲ進メ八月二十一日ヨリ白峰村宇白峰ニ工場ヲ開設シ材料運搬道路ノ復舊工事ニ着手シ引續キ柳谷ニ於テハ第四號、十號、十六號ノ三堰堤及甚之助谷上第五號副堰堤ニハ補強及假護岸工事等ノ應急工事ヲ施行シ是等四工事ハ竣功シタルモ前記ノ柳谷第十六號、甚之助谷第二十一號、甚之助谷上第十七號ノ三堰堤工事ハ其一部ヲ翌年度ヘ繰越タリ

尙運搬道路ハ白峰村風嵐ヨリ一之瀬ニ至ル間殆ド崩壞流亡シ人馬ノ交通杜絶スルニ至リタルヲ以テ總延長一萬一千三百八十五米二ノ間ニ道路築造ノ計畫ヲ樹テ施行中ノ處降雪期ニ入り未完成ノ儘翌年度

第七 揖斐川流域砂防工事

緒言

本工事ハ揖斐川流域根尾川ニ施行スルモノニシテ昭和二年度ヨリ總工費百二十五萬圓ヲ以テ十三箇年度繼續事業トシテ施行スル豫定ナリシガ其後幾度カ減額セラレ結局總工費九十六萬八千二百十七圓ヲ以テ昭和十七年度迄施行スルコトナレリ

河狀並計畫大要

根尾川ハ源ヲ岐阜縣ト福井縣トノ境界ナル溫見峠ニ發シ山間溪谷ヲ縫流シ能郷河内東等ノ溪流ヲ集メ流ルルコト約四十六軒ニシテ山間部ヲ離レ藪川トナリ揖斐川ニ注グ勾配甚ダ急ニシテ河床ハ概ネ崩壞セル土石ノ沈澱ヨリ成リ河幅狹キ箇所ハ兩岸岩盤露出シ深谷ヲ爲ス所尠カラズ其流域三百八十平方軒ナリトス

根尾川ハ明治二十四年濃尾大地震ノ震源地ニシテ既ニ四十年ヲ經過スト雖モ震災ニ起因スル禿崩未ダ其儘ニ放置セラレ其範圍モ亦甚ダ廣シ從ツテ土砂ノ流出極メテ多ク下流藪川ノ河床ヲ高メ堤防ニ危害ヲ及ボスノミナラズ河床隆起ノ結果滲透水夥シク沿岸耕地ヲシテ徒ニ水濕過度ノ惡田ト化セシメ延テハ其害ヲ揖斐川ニモ及ボシ木曾川上下流改修工事ノ效果ヲ減殺スルノ虞アルヲ以テ充分ナル砂防工事ノ施行ハ一日モ忽ニスベカラザルモ其工費巨額ニシテ國費多端ナル折柄全部ノ施工ハ到底望ムベカラ

ザルヲ以テ先ヅ砂害最モ大ナル能郷谷、初鹿谷及宮井谷ノ三溪流ニ施行スルコトセリ
該三溪流ハ何モ土砂ノ流出大ナルヲ以テ適當ナル箇所ニ堰堤數十箇所ヲ築設シ土石流下ヲ扞止シ河床
勾配ヲ緩和セントス

又延長二千餘米ノ護岸及數十ヘクタールノ山腹工事ヲ施行シ以テ河岸ノ浸蝕土石ノ崩落ヲ防禦セント
ス而シテ前記三溪流ハ何レモ偏陬ノ地ニシテ殊ニ積雪多クシテ冬季工事ヲ施行セラレザルヲ以テ最モ
急ヲ要スル箇所ニ新ニ前記三溪流以外黒山、此谷、上段、鷺津谷、下野、尾砂谷及上葛ニ區域ヲ擴張シ（昭和七年
三月十九日認可）工事ヲ起シ堰堤護岸及山腹ニ施行セントス

施工状況

前年度迄ニ竣功セル工事ハ堰堤十五、山腹七、護岸一ナリ

本年度ハ前年度ヨリ繼續セル禮野、蛇洞、門原、池迫及永谷々止石積ノ五堰堤ト蛇洞第一、永迫、門原、此谷、黒砂
利、小笠原、口無、蛇洞第二、神所、石原、黒山第一、黒山第二、柴原ノ十三山腹並本年度起工セル釜谷、鷺巢及水無石
ノ三堰堤ト合計二十一工事ナリ

而シテ池迫堰堤及長谷々止石積工並蛇洞第一、永迫、門原、此谷、小笠原及石原ノ六山腹工事ハ竣功セリ
禮野、蛇洞兩堰堤ハ基礎ニ岩盤ナク堰堤前庭ノ洗掘状態ニ依リ尙工事ヲ要スル見込ナリ

池迫堰堤工事ハ前年度ヨリ引續キ工事ヲ施行シ竣功セリ

長谷々止石積工事ハ前年度ヨリ引續キ工事ヲ施行シ竣功セリ

蛇洞第一山腹工事ハ前年度ヨリ引續ケルモノニシテ竣功セリ

永迫山腹工事ハ前年度ヨリ引續ケルモノニシテ竣功セリ

門原山腹工事ハ前年度ヨリ引續ケルモノニシテ竣功セリ

此谷山腹工事ハ前年度ヨリ引續ケルモノニシテ竣功セリ

黒砂利山腹工事ハ前年度ヨリ引續ケルモノニシテ七八步通り竣功セリ

小笠原山腹工事ハ前年度ヨリ引續ケルモノニシテ竣功セリ

口無山腹工事ハ前年度ヨリ引續ケルモノニシテ五五步通り竣功セリ

蛇洞第二山腹工事ハ前年度ヨリ引續ケルモノニシテ三歩通り竣功セリ

神所山腹工事ハ前年度ヨリ引續キ施行セルモノニシテ九六步通り竣功セリ

石原山腹工事ハ前年度ヨリ引續キ施行セルモノニシテ竣功セリ

黒山第一山腹工事ハ前年度ヨリ引續キ施行セルモノニシテ竣功セリ

黒山第二山腹工事ハ前年度ヨリ引續キ施行セルモノニシテ竣功セリ

柴原山腹工事ハ前年度ヨリ引續キ施行セルモノニシテ竣功セリ

門原堰堤工事ハ前年度ヨリ引續キ施行セルモノニシテ竣功セリ

釜谷堰堤工事ハ宮井谷本流ニ築設スルモノナリ高十米ニシテ前記口無山腹ノ脚ヲ保護シ流下土石ヲ扞

止シ河床勾配ヲ緩和セントス本年度一割五分竣功セリ

鷺巢堰堤工事ハ曩ニ竣功セル神所堰堤上流ニ築設スルモノニシテ流下土石及河床勾配ヲ保護セントス

本年度七四步通り竣功セリ

水無石堰堤工事ハ根尾川支流尾砂谷小支水無谷ニ築設シ流下土石ヲ扞止スルト共ニ河床勾配ヲ緩和セ
ントス本年度七步通り竣功セリ

本年度揖斐川流域砂防工事竣功額ハ六萬一千四百三十二圓ニシテ起工以來ノ累計五十五萬百十三圓ト
ナリ總工費九十六萬八千二百十七圓ニ比スレバ約五割七分ノ竣功トナル其竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合 計		竣功歩合
	數	量	金	額	數	量	
本 堤		箇所 二七	二五、二五〇	二五、二五〇		箇所 二九	〇・八八
工事 護岸		米 一〇三	二一、六二五	二一、六二五		米 一〇三	〇・八四
費 山腹		ヘクタール 一・一七	二五、五七五	二五、五七五		ヘクタール 一・一七	〇・八六
船 舶及機械			一、一四一	一、一四一			
測 量			一、一七五	一、一七五			
營 繕			一、一七五	一、一七五			
雜 費			一、一七五	一、一七五			
共濟組合給與金			一、一七五	一、一七五			
總 計			一、一七五	一、一七五			〇・七五

第八 木津川流域砂防工事

緒言

本工事ハ元淀川流域全體ノ砂防工事トシテ明治十一年度ヨリ引續キ施行シ來リシガ同四十年年度ヨリ以降二十三箇年度ノ繼續事業ト改マリ總工費六十九萬圓、年額三萬圓ヲ以テ瀬田川流域ト合併施行中ノ處昭和二年度ニ至リ本流域ハ元淀川流域砂防工事ヨリ分離セシ豫算四十四萬七千三百圓ヲ以テ同年度以降十三箇年度ノ繼續事業トシテ單獨ニ施行ノ事トナリタルモ昭和五年度ニ於テ財政緊縮ノ爲メ一萬八千二百九十七圓ヲ更ニ同六年度ニ五萬一千八百三十二圓ヲ減額セラレ年限ハ二箇年度延長トナリ同八年度以降ニ於テモ二萬八千五百七十七圓ヲ減ゼラレ總豫算三十四萬九千一百十四圓ト改定サレ昭和十七年度ニ至ル十六箇年度ノ繼續事業トナレリ

施工狀況

本年度ハ年割豫算額四萬三百五十圓(内時局匡救事業費二萬四千圓)ヲ以テ前年度ヨリ引續キ木津川小支河合川及拓植川流域ハ河合工場ニ於テ同小支名張川、長田川、青蓮寺川流域ハ名張工場ニ於テ、尙本流域中央左岸ノ木津、加茂附近ハ加茂工場ニ於テ施行セリ其竣功高ハ二萬九千四百四十二ヘクタール(修繕工事無シ)工費三萬二千九百三十二圓ニシテ之ヲ内譯スレバ繼續工事一萬百三十圓(竣功面積九千六百四十九ヘクタール六)振興工事二萬二千八百二圓(竣功面積一萬九千四百九十二ヘクタール四)ナリ

總計	公共經濟組合給與金	雜費	營業費	測量費	機械費	費事		
						粗糲伏	護岸工	崖切工
—	—	—	—	—	—	四、四四〇	二、七二一 米	七、五〇〇 米 三、六四八 立方米
三、九、二、四〇	一、四、四九	二、九、一、八八	一、四、四四	一、一、八一	七、五、五六	九、五、六七	四、二、七九	一、二、〇、〇〇 米 六、〇、〇一四 立方米
—	—	—	—	—	—	一、四、二、〇〇	三、八、八 米	二、六、〇〇〇 米 四、〇、五七 立方米
五、〇、三、三〇	二、二、二〇	五、三、八、五	九、八	三、五、九	一、一、三、六	三、一、三、四	一、〇、八、〇一	三、五、七、七 米 四、九、九 立方米
—	—	—	—	—	—	六、一、四、四〇	二、一、三、九 米	一、〇〇、〇〇〇 米 四、〇、五七 立方米
一、一、四、〇、〇〇	一、七、七、一、二	三、四、四、四四	一、一、四、四四	一、一、四、四四	一、一、四、四四	一、一、四、四四	五、六、八、〇	一、一、四、四、四 米 六、〇、〇一四 立方米
〇、一、一、一	—	—	—	—	—	一、〇、〇	〇、一、一、一	〇、一、一、一 米 六、〇、〇一四 立方米

第九 神通川流域砂防工事

緒言

神通川上流砂防工事ハ支川高原川右支蒲田川左小支足洗谷筋及高原川右小支岩坪谷筋ニ施行スルモノニシテ其崩壊ハ主トシテ燒岳ノ噴火ニ依ルモノナリ燒岳ハ飛驒ト信濃ノ國界ニ位置シ天正年間爆裂ノ際足洗谷ノ所在地岐阜縣古城郡上寶村大字中尾方面ニ向ツテ泥流ヲ推出シタルモノノ如シ輓近ニ至リテハ明治四十年十二月八日俄然舊噴火口底ノ東方ニ新爆裂火口ヲ生ジ又火口壁上ニ新噴火口ヲ形成シ噴氣ノ絶ユルコトナク火口ノ位置ハ時ニ幾部變遷アルモ今尙盛ニ噴氣ヲ續ケツツアリ

明治四十年ノ大爆裂後噴出シタル熔岩熔砂ハ大正九年六月ノ大豪雨ニ際會スルヤ各谷筋ニ於テ一大泥流トナリテ推出シ其下流ハ大洪水トナリ上寶村ノミニテ死傷者數十人、耕地流失二百二十九ヘクタール、道路ノ缺潰流亡三千八百米ニ及ビ下流船津町ニ於テモ家屋ノ流失及人畜ノ死傷ヲ來セリ爾來河狀一變シテ逐年砂礫ノ流出夥シク之ヲ放置センカ河流沿岸ノ被害測リ知ル可カラズ依テ昭和七年度ヨリ昭和十六年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業トシテ總工費五十四萬圓ヲ以テ國ニ於テ直接施行スルコトナレ

河狀並計畫大要

足洗谷ハ源ヲ燒岳(標高二千四百五十八米)ニ發シ流域面積七平方粁、流路延長四千六百五十米ニシテ蒲田

川ト合シ其下流五籽ニシテ高原川ト合流ス水源ヨリ四籽間ハ滿山只茫々タル荒廢地ヲ深掘シテ流下シ其下流ハ兩岸地勢急峻ナル山地ニシテ基岩アルモ脆弱ニシテ阻ム可カラズ蒲田川ハ元幅員二十米内外ニ過ギザル小川ナリシガ大正九年六月ノ大豪雨以來河狀甚シク變化シ幅員百米ニ垂ントシ高原川筋亦河床ヲ高メ幅員増大シ從ツテ流心常ニ變動シテ亂流ヲ極メ沿岸ヲ缺損シ附近住民ノ脅威トナレリ岩坪谷ハ源ヲ同ジク燒岳ニ發シ西流六籽ニシテ高原川ト合流ス流域面積七平方籽四、水源ヨリ二籽間ハ河狀足洗谷ニ彷彿シ夫レ以下ハ森林地帶ヲ過ギ河狀稍良好ナルモ幅員廣ク勾配緩ナル箇所ニハ大正九年ノ大洪水ニ因リ押出サレタル土石ノ堆積セルアリテ豪雨出水毎ニ是等砂礫ヲ堆流シ下流沿岸ニ被害ヲ與ヘツツアル現況ナリ而シテ是等兩谷筋ニ對シ徹底的ニ工事ヲ施行センニハ多額ノ工費ヲ要スルヲ以テ差當リ上流部ニ於テ各十箇所内外ノ堰堤ヲ設ケ河床勾配ノ緩和ヲ計リ土石ノ流下ヲ打止スルモノトス

施工狀況

本工事ハ昭和七年度ノ創業ニシテ直ニ施行準備ニ着手シ本年度ハ足洗合筋ニ於テハ堰堤護岸工事ニ全カヲ注ギ岩坪谷筋ニ於テハ材料運搬設備ヲ完了セシメ堰堤工事ニ着手セリ其工事施行狀況ヲ述ブレバ次ノ如シ

足洗谷筋ニ在テハ前年度ニ引續キ黒谷第一號護岸嵩置變更工事ヲ施行シ之ヲ竣功セリ此立積三百四十九立方米ナリ斯テ足洗谷第一號堰堤附屬護岸工事ニ着手シ之ヲ竣功セシメタリ其立積二百三十二立方米ナリ

本年七月十日大出水アリ山津波ヲ惹起シ足洗谷第一號堰堤水叩下深掘レヲ生ジ水叩ノミニテハ危險ヲ感ゼシヲ以テ副堰堤工事ヲ計畫シ延長三十一米、水通面直高七米、此體積六百立方米ヲ完成ス

前記山津波ノ爲メ黒谷假水路堰破壞セシニ付木造堰堤ヲ起工シ八割ノ竣功トス足洗谷第二號堰堤ハ延長三十三米、水通面直高十米、此體積一千八十立方米ノ處僅カニ四割ノ竣功ナリ

本谷筋道路栃尾、蒲田間約四軒ノ内延長一千七百五十米ヲ幅員二米七ニ改良ヲ加フルトキハ自動車運轉可能トナリ工事施行上便益尠少ナラズ依テ縣費ニテ施工ノ殘餘八百五十米ヲ國費ヲ以テ改良スル事トシ内三百四十米ヲ竣功セリ

岩坪谷筋ニ在テハ前年度ニ於テ施工中ノマセド第二材料運搬道路ノ殘部延長六百四十一米ヲ本年度ニ於テ竣功セシメタリ而シテ之ト同時ニ本道路ニ通ズル三百二十八米ノ高低アル兩地點ニ簡易ナル鐵索ヲ架設終了シ尙之ト連絡シテ軌道ノ布設ヲ完成セシメ運搬設備ノ完了ヲ見タルニ依リ本谷筋ニ於テ二箇所ノ堰堤工事ニ着手シ其内岩坪谷第一號堰堤延長四十一米、水通面直高十米、體積一千三百七十九立方米及岩坪谷第二號堰堤延長四十米、水通面直高八米、此體積一千三百七十九立方米ヲ施工シ前者ハ年度内ニ竣功シ、後者ハ三百二立方米ノ築立ヲ了セルノミニテ冬期ニ入り施工ヲ中止セリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ七萬七千四百四十七圓ニシテ前年度ヨリノ累計ハ二十一萬九百六十圓ナリ之ヲ總工費五十四萬圓ニ比スレバ約三割九歩ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費	未竣工功	四、一〇〇	未竣工功	四、一〇〇	未竣工功	八、二〇〇	〇・一六
堰	未竣工功	二、三〇〇	未竣工功	二、三〇〇	未竣工功	四、六〇〇	
護岸	二	一、二〇〇	二	一、二〇〇	三	二、四〇〇	〇・一六
船舶及機械	一	一、二〇〇	一	一、二〇〇	二	二、四〇〇	
測量	一	一、二〇〇	一	一、二〇〇	二	二、四〇〇	〇・一六
營繕費	一	一、二〇〇	一	一、二〇〇	二	二、四〇〇	
雜費	一	一、二〇〇	一	一、二〇〇	二	二、四〇〇	〇・一六
共濟組合給與金	一	一、二〇〇	一	一、二〇〇	二	二、四〇〇	
總計	一	一、二〇〇	一	一、二〇〇	二	二、四〇〇	〇・一六